

大学・高専機能強化支援事業 現地調査実施要領

令和6年10月10日

大学・高専機能強化支援事業選定委員会決定

1. 目的

実施状況報告書(計画の進捗状況等)を踏まえた現地調査は、大学・高専機能強化支援事業選定委員会(以下「委員会」という。)の委員及び専門委員(以下「委員等」という。)が大学等に赴き、事業責任者等との意見交換、学生との意見交換、教育現場・施設等の視察等を行うことにより、事業計画の進捗状況等を確認し、選定校の好事例を収集するとともに、大学・高専機能強化支援事業全体を的確に運用していくために必要な課題について把握することを目的とする。

2. 対象校

提出された実施状況報告書の確認結果等を踏まえて、委員会において、当該年度の対象校を決定する。
原則として、支援対象となる新設又は増員の学部・研究科等で学生の受入を開始した大学等を対象とする。

3. 実施日

対象校と協議した上で大学改革支援・学位授与機構(以下「機構」という。)が決定する。

4. 参加者

[調査者]

委員 2 名程度

[選定校]

事業責任者等(事業計画に関して責任をもって回答いただける者)

経営担当役員等(経営面に関して責任をもって回答いただける者)

事業担当者

支援対象学部・研究科等の在籍学生

関係教職員(必要に応じて同席)

事務局(必要に応じて同席)

5. 所要時間(予定)

4 時間程度

6. 実施項目及び内容

実施項目及び内容については、原則として以下のとおりとする。

(1) 事業責任者等からの説明・質疑応答(60 分程度)

調査者は、事業責任者等から事前質問事項への回答を中心に、事業計画の進捗状況等についての説明を受け、その内容等をもとに質疑応答を行う。

(2) 支援対象学部・研究科等の在籍学生との意見交換 (60 分程度)

調査者は、支援対象学部・研究科等の在籍学生との意見交換を行い、当該事業計画における教育活動の実施状況等について把握する。

(3) 教育現場・施設等の視察 (60 分程度)

調査者は、対象校からの説明を受けながら教育現場や関連施設を視察し、調査を行うとともに、当該事業計画における教育活動の実施状況等について把握する。

(4) その他、調査者が必要と判断する事項

(5) 事業責任者等との意見交換 (15 分程度)

調査者は、調査終了時に調査結果に関するコメント・感想を伝え、その内容等をもとに意見交換を行う。

7. その他

- ・現地調査にあたっては、選定校に過度な負担にならないように配慮する。
- ・調査者は、現地調査の結果をまとめ、別紙の報告書を作成し、委員会に報告する。
- ・調査者は、現地調査によって明らかにならなかった点、あるいは新たに生じた不明な点等がある場合、必要に応じて、対象校に対し書面による説明を求めることができる。

8. 現地調査スケジュール(例)

以下のスケジュールは一例であり、実際の実施項目及び内容等により異なる。

【13 時 00 分～17 時 00 分を調査時間とした場合】 各事項には移動時間も含む。

13:00	調査者、現地到着	所要時間
13:00～13:15	打合せ(調査者のみ)	-
13:15～14:15	事業責任者等からの説明・質疑応答	60 分
14:15～15:15	支援対象学部・研究科等の在籍学生との意見交換	60 分
15:15～16:15	教育現場・施設等の視察	60 分
16:15～16:45	打合せ(調査者のみ)	30 分
16:45～17:00	意見交換(コメント、感想)	15 分
	終了	

大学・高専機能強化支援事業
令和 6 年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日		区分	
選定年度		大学名	
設置等組織名		設置・定員増員年度	
事業計画名			

1. 進捗状況の概要
(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況 (当初計画の進捗状況、申請要件に係る取組の状況など) (2) 好事例や把握された事業の成果 (3) その他 (留意事項や指摘事項への対応状況など)
2. 指摘事項(留意事項・参考意見)